

## 第4章 介護予防・日常生活圏域二一ズ調査の分析

### 1. 調査の概要

「登米市高齢者福祉計画・第7期介護保険事業計画」の策定にあたり、計画策定の基礎資料とするため、高齢者が要介護状態になるリスクの状況や生活支援、高齢者の社会参加、支え合い体制づくりの推進に必要な日常生活状況を把握するため、介護予防、日常生活圏域二一ズ調査を実施しました。

#### (1) 調査対象

調査対象は、市内に住む65歳以上の要介護認定を受けていない高齢者21,337名のうち、1,500名を無作為抽出しました。

#### (2) 調査期間

平成29年1月11日 ～ 平成29年1月30日

#### (3) 回収状況

	配布数	回収数	回収率
介護予防・日常生活圏域二一ズ調査	1,500人	1,293人	86.2%

(単位：人)

圏域名	対象者数(人)	配布数(人)	回答数(人)	回答率(%)
全域	21,337	1,500	1,293	86.2
迫圏域	4,978	347	295	85.0
中田・石越圏域	5,332	374	320	85.6
東和・登米圏域	3,486	247	214	86.6
米山・南方圏域	4,831	338	301	89.1
津山・豊里圏域	2,710	194	163	84.0

#### (4) 結果の概要

家族構成をみると、ひとり暮らし及び夫婦のみの高齢者世帯が35%を超えています。(図表1) 介護・介助の必要性では、何らかの介護・介助を必要としているのは16.6%で、そのうち、介護・介助を受けているのは5.5%となっています。(図表2) 介護・介助を行う人は、配偶者が23.7%と最も高い割合となっています。(図表3)

日常生活では、外出頻度は、週2回～4回が約4割と最も多く、「ほとんど外出しない」は1割以下となっています。(図表4)

一般高齢者における要介護状態になる要因は、認知機能が5割超で最も多く、うつ、口腔機能、閉じこもりも2割を超えています。(図表8)

社会参加の状況等においては、趣味や生きがいを持っている人の割合が約5割となっています。(図表10、図表11)

また、ボランティアや趣味など高齢者の地域活動への参加状況は、6～7割と高い状況にありますが、年齢が高くなるにしたがい減少しています。(図表12、図表13)

地域の助け合いにおいては、7割以上が必要と考えており、(図表14)「行っている、行っていきたい活動」では、見守り・声かけ、話し相手の回答割合が高くなっています。(図表15)

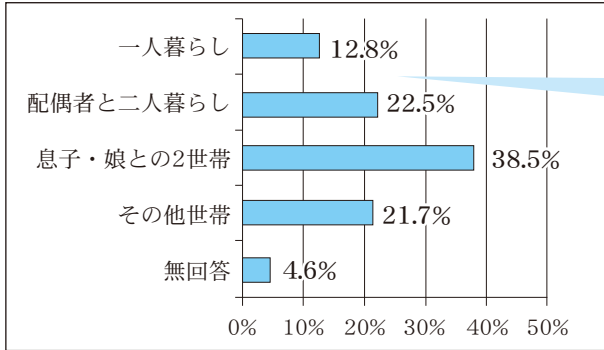
将来介護が必要な場合に介護を受ける場所の希望については、「自宅」が最も高くなっており、(図表16) 在宅生活を続けるうえで利用したい支援サービスや取り組みでは、「外出支援」が37.7%と最も多く、次いで、「見守りや声かけ」、「緊急通報システム」、「掃除支援」、「話し相手」の順になっています。(図表17)

また、希望する高齢者施策をみると、介護している家族への支援、介護保険の在宅サービス、介護保険の施設サービスなどが多くなっています。(図表18)。

2. 調査結果の分析

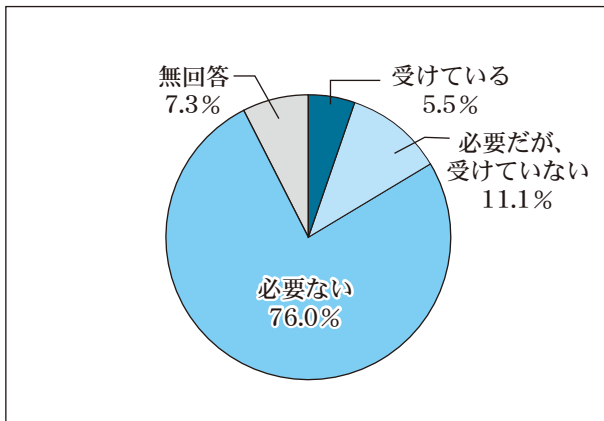
①世帯・介護の状況等

図表1 家族構成



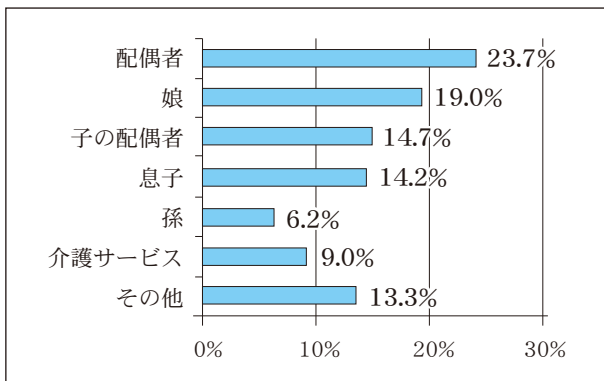
一人暮らしと65歳以上の夫婦二人暮らしは35%を超えている。

図表2 介護・介助の必要性



介護・介助は必要ないが76.0%で最も多い。次いで、何らかの介護・介助が必要だが現在は受けていないの11.1%の順である。介護を受けているは5.5%となっている。

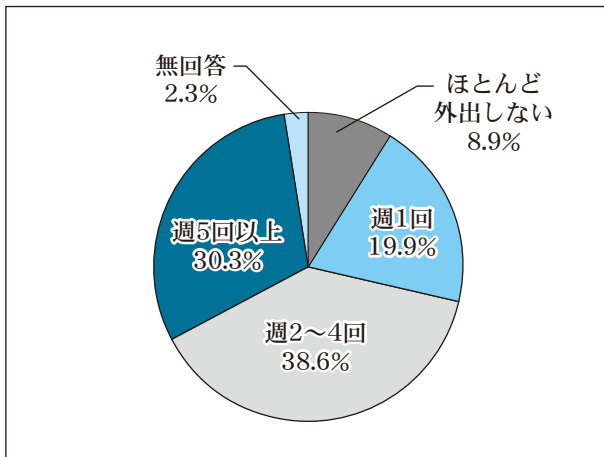
図表3 介護・介助を行う人



介護・介助を行う人は、配偶者23.7%が最も多く、次いで娘19.0%、子の配偶者14.7%、息子14.2%の順である。

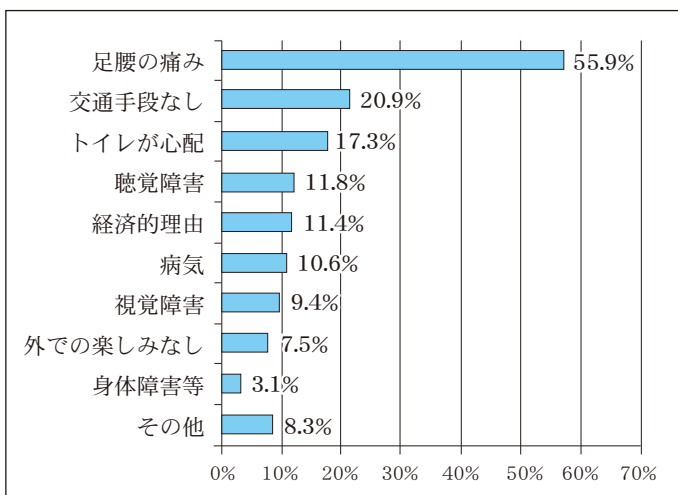
②日常生活

図表4 外出頻度



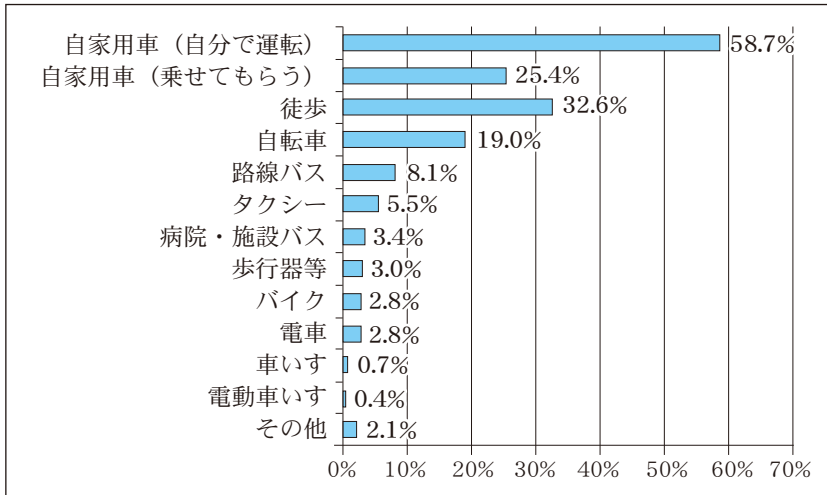
外出頻度は週2～4回が38.6%で最も多く、次いで週5回以上が30.3%である。ほとんど外出しないは8.9%である。

図表5 外出を控えてる理由（複数回答）



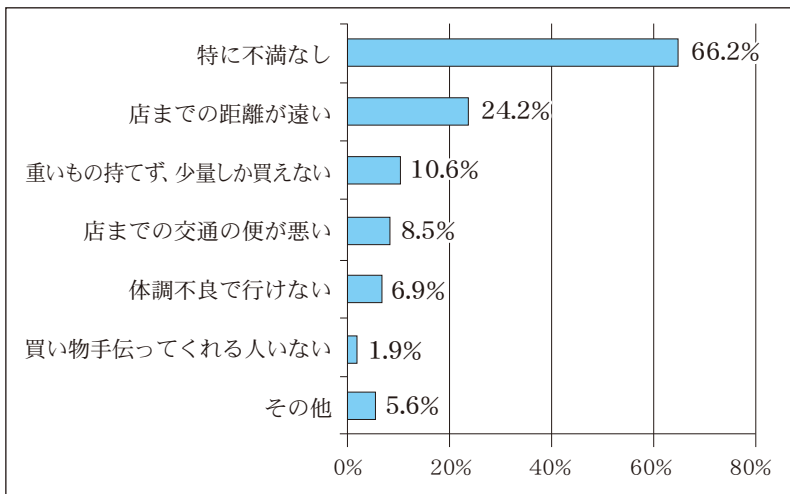
外出を控えている理由として最も多いのが、足腰の痛みで55.9%である。次いで交通手段なしが20.9%だった。何らかの障害を理由に外出を控えているとの回答も多く、約25%の回答があった。

図表6 外出する際の移動手段（複数回答）



自ら運転する場合と乗せてもらう場合とがあるが、自家用車利用が最も多く、次いで徒歩が32.6%となっている。

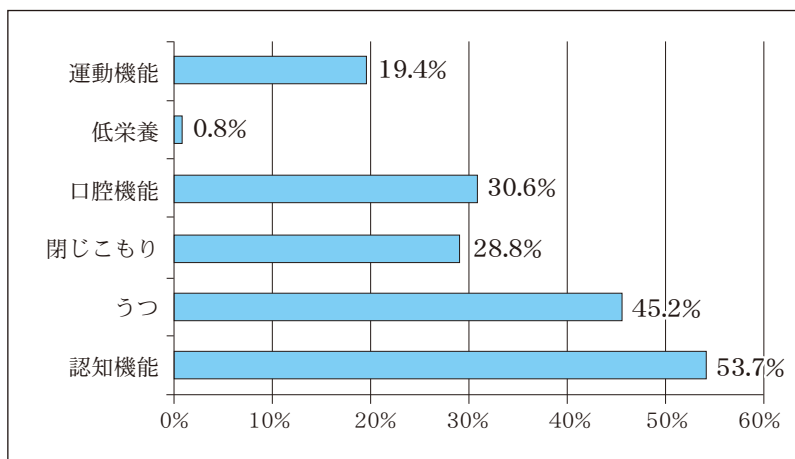
図表7 日常の買い物で不満や不便を感じていることはありますか（複数回答）



約7割が不満はないと回答しているが、不便さを感じているものには、店までの距離が遠い24.2%、重いものが持てない10.6%、交通の便が悪いが8.5%あった。

③ 介護予防

図表8 一般高齢者における要介護状態になる要因（複数該当あり）



一般高齢者における要介護状態になる要因は、認知機能、うつ、口腔機能、閉じこもりが20%を超えている。

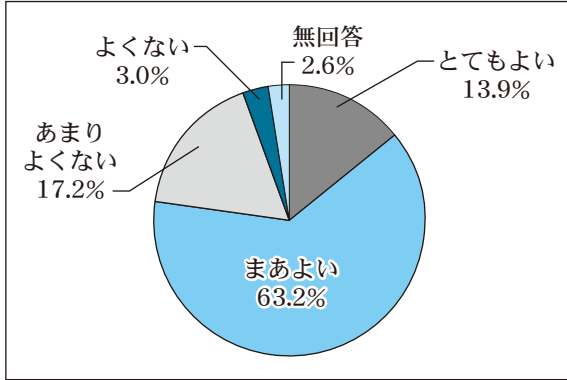
※アンケート調査の生活状況等に関する回答から、各要因項目への該当状況を基本チェックリストに準じて判定。

【参考】

要因項目	該当状況
運動機能 (3/5以上)	階段昇降時に手すりや支えが必要
	立ち上がり時に支えが必要
	15分連続歩行できない
	1年間の転倒経験
	転倒に対する不安
低栄養 (2/2以上)	2～3kgの体重減少
	BMIが18.5未満（体重÷身長÷身長）
口腔機能 (2/3以上)	固いものが食べにくい
	お茶や汁物等でむせる
	口の渇きが気になる
閉じこもり	外出は週1回未満
うつ (1/2以上)	気分が沈む、ゆううつ
	興味がわからない、楽しめない
認知機能 (1/3以上)	物忘れが多いと感じる
	自分で電話番号を調べない
	今日の日付を忘れることがある

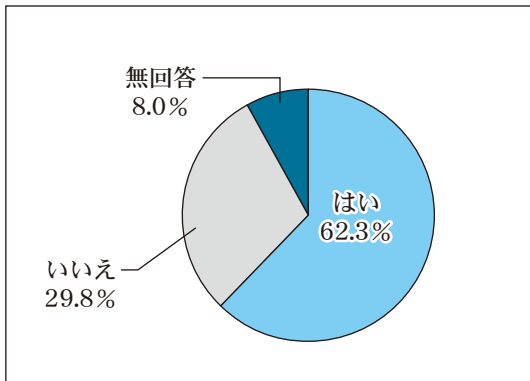
④社会参加の状況等

図表9 健康状態

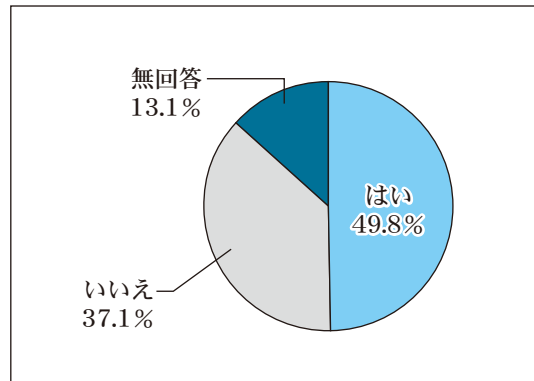


主観的な健康感では、とてもよい、まあよいを合わせると77.1%である。

図表10 趣味はありますか



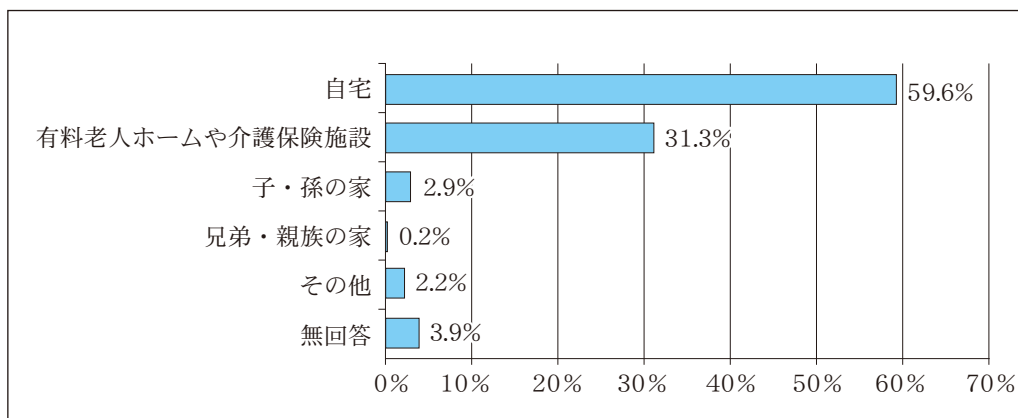
図表11 生きがいはありますか



趣味は約6割（図表10）、生きがいは約半数の方があると回答している（図表11）

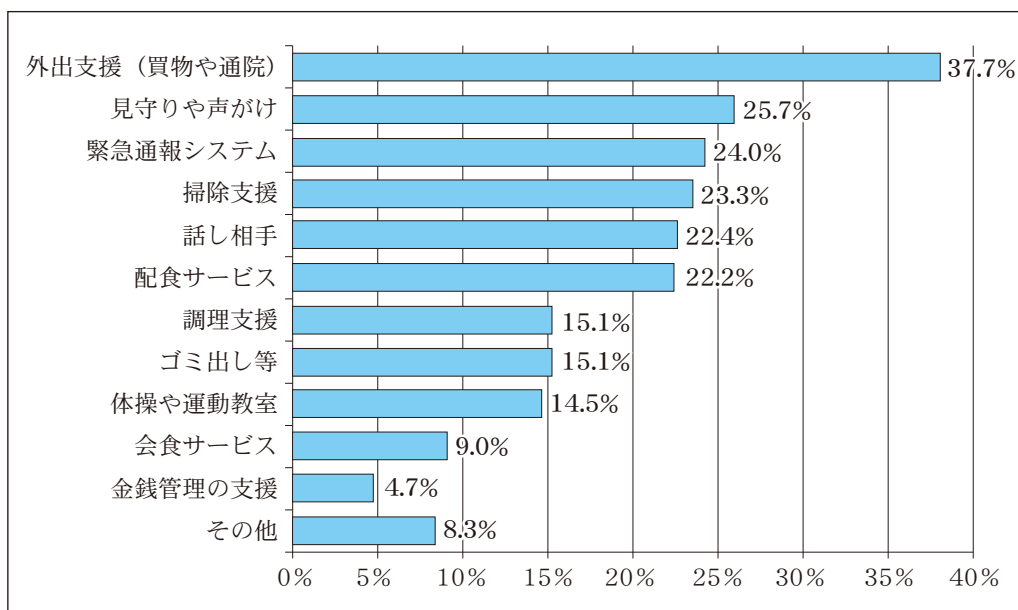
⑥今後について

図表16 仮に介護が必要になったときどこで暮らしたいですか



介護が必要になったときどこで暮らしたいか、その割合をみると、すべての年齢階層で「自宅」と答えた人の割合が最も高い。

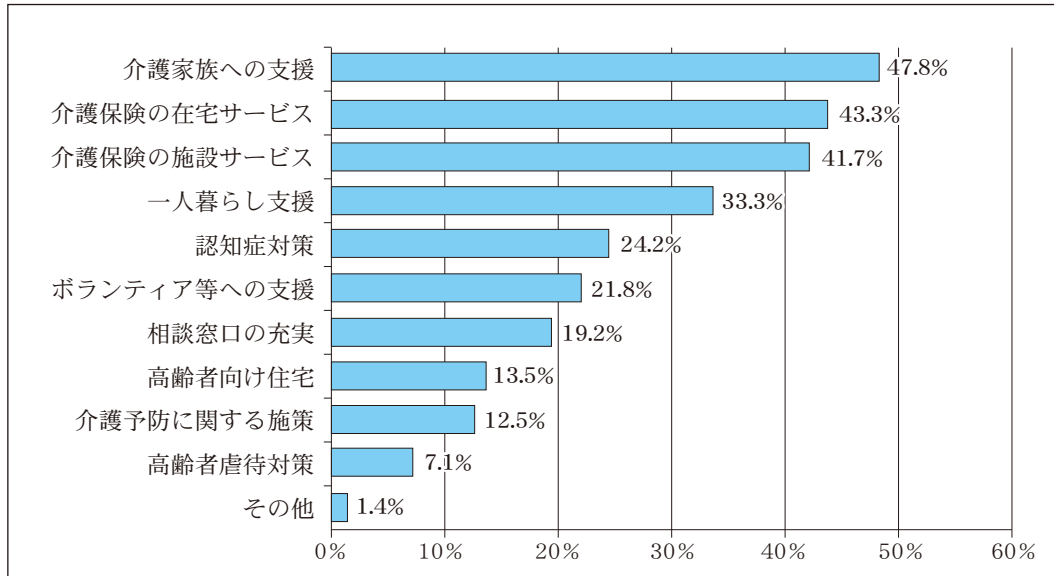
図表17 在宅生活を続けるうえで、利用したいサービスや取り組みは何ですか（複数回答）



在宅で利用したいと感じるサービスは、買い物や通院などの外出支援が37.7%と最も多く、次いで、見守りや声かけ25.7%などとなっている。



図表18 どのような高齢者施策の充実を望みますか（複数回答）



希望する高齢者施策は、介護している家族への支援47.8%、介護保険の在宅サービス43.3%、介護保険の施設サービス41.7%の順となっている。